

<http://kk-scrapbook.blogspot.com/>

2010年12月5日 日曜日

ユーモアとデザインとアートと。



アートはモノではない。デザインはカタチではない。

現在、東京都現代美術館でオランダのアート&デザイン新言語という展示が開催されている。20世紀デザインの快適さや機能性といった場所とは違った所にありコンセプチュアルでユーモアがあると言われていたオランダのデザインを環境と消費、都市と社会システム、歴史と文化の継承といった複雑で深刻な問題を内にかかえながらも、興味深く面白いプロダクトを提案してくれる様に気がつけば、デザインに引き込まれているといった雰囲気であるとても注目を集めているオランダのデザイン。その中でも4人の

クリエイターが今回は作品を提供している。アートとデザインの分野から2名ずつ参加している。

マルティン・エングルブレクト氏は、参加型の作品を展示している。触れる事、体験する事で身体を通して伝わるアートは感情にダイレクトにひびいてくるようだ。最初に迎えてくれるのは、二つの質問に答える様に選んだ方の言葉の名をもつドアを自分の手で押してゆく。選ぶという事を繰り返す、選んだ方を進む。シンプルだけれどなかなか面白い。簡単な事を選びとって進んでいてもいきつく先は幾つもある。何が重要な事なのかを教えてくれるようにユニークで楽しいのである。楽しいといえば、ご近所ショップもこんなお店があったらどんなに素敵だろうかと思ってしまう。手に取って見てまわることでモノとはなんだろうかと思いをつのらせてしまう。何気ない日常が少し豊かになるような、潤う様なユニークさを提案してくれる。小さな東京モニュメントというインスタレーションは、ブロックとセメントを使って作ってゆく。ブロックを持った様々な人々の手が加えられ、変化を繰り返しながら小さな新しい東京が出来上がってゆく。どこにどのようにして配置するのか、何を描くのか。そんな小さな決断が積み重なって想像のつかない都市の姿をみせてくれる。人と人との繋がりやコミュニケーションをブロックを通して感じるのである。



作家：マルティン・エンゲルブレクト CC / BY-NC-ND